

香川駅前さくらハウス 防犯パトロール隊 「一年を振り返る」

香川駅前に防犯パトロールの拠点として発足したさくらハウスは、この3月末で丁度1年を経過いたしました。この間、多くの方々のボランティアに支えられての1年間でしたが、パトロールに参加してくださいました人数は述べ1500余人となりました。また、犯罪発生件数も本誌前号でもお知らせしましたように対前年度30%の減少となり、徐々にその成果が上がっています。

「継続は力なり」と申しますが、犯罪防止の抑止力として「地域住民の安全と安心のまちづくり」をめざし、19年度も多くの方のご協力を得ながら努力を積み重ねて行けたらと思っています。

今回、防犯ボランティア隊に参加して頂きました方の中から5名の皆さんにこの1年間の感想を頂きまして掲載させていただきます。

◎昨年「さくらハウス」が香川駅前に完成し、防犯パトロールに参加して安心して住める町になつたはずですが、なぜか昨今「ひつたり」が多発してゐるに驚いています。みどりのキヤップとベストを着用して、結構目立つ色なのに、ひつたくる側は、返つて目立つ色に警戒心を持ち、立ち去つた後に実行しているのではないかと思つてしまひます。もつと沢山のボランティアさんを募つて、朝、昼、夜とパトロールをした方が良いのではないかとも考えたりしますが如何なものでしようね。私は

◎さくらハウスの皆さん一年間ご苦労さまでした。その成果はどうでしたか。

さて、グリーンの帽子にベスト腕章という出立ちで、この一年間（十一回）おかげで香川の小径や町並み、そして危険個所も詳しく見つてしまひます。もつと沢山のボランティアさんを募つて、朝、昼、夜とパトロールをした方が良いのではないかとも考えたりしますが如何なものでしようね。私は

犯罪企図者は、どこでも犯行に

香川に住んで40年、昔と違つて住たと思って毎日生活しておりますが、物騒な世の中、香川の町だけでも安全な町にしてゆきたいものですね。

及ぶものではないと思うのです。「稼ぎとりリスク」は常に考え、その基準は時間と人の目と言われています。更に隠れるところがあるか、逃げ道は安全か、等々一歩から私達は危険な場所をなくすようにする。それが町の安心安全を勝ち取るための手段かも知れなっています。大勢の方の防犯意識が最も重要な要です。コツコツと一人ひとりの地道な活動が安全を築く礎だと思います。

田口政雄

Y・T (55才)

1. 隊当たりの人数を8人に増やし、月2回でもよいのでは?

2. 当番日に都合悪かつた人の振替参加がしやすい仕組みづくり。

◎子供が犠牲になる事故や事件が相次いでいた矢先に、隊員募集を知り、ごく自然に参加しました。

活動の主旨は素晴らしいし、日頃「私に何ができるだろう」と考えていた自分にとって、ささやかな達成感を味わうことが出来ました。

活動をより充実させる為に、次の二点を提案します。

◎香川に住んで四十年余り、その殆どを会社人間で、地域との触合

いも少なく過ごして來た。リタイ

ヤ後は地域に恩返しを考えていた

折、防犯ボランティアの募集があ

り早速応募した次第。パトロール

をして感じた利点を上げてみると、

一、当然のこと乍ら地域防犯の一助

として実施出来なかつた「救急救命講習」段取りの悪さに責任を感じています。

◎香川駅前に開設の「防犯連絡所」が企画開催するふれあい祭りや地引き網、他:

が、物騒な世の中、香川の町だけでも安全な町にしてゆきたいものですね。

町内会だより

第一町内会

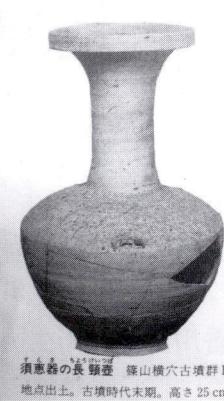
第二町内会

(十九年度は福祉バスの利用が廃止になりました) 計報等は速やかに組長さんを通し連絡して下さい。

最後に、自治会は地域全ての人達の親睦と協力の上に、文化的で

区連合会の防災訓練、体育振興会に大きく貢献している湘北地区の香川地区体育大会、自治会の委員会が企画開催するふれあい祭り

が、物騒な世の中、自然にその恩恵を受けているとも云えます。



須恵器の長頸壺
地点出土 古墳時代末期 高さ25cm

みんなの声

春だ春だ…もつと野山に出かけよう！

私は里山歩きが好きだ。今頃、枯れ枝の雑木林の中を歩くと、野鳥のさえずりが聞こえてくる。足元ではカタクリの花が咲きはじめ、温かい陽だまりに積もった枯葉のソファにそつと腰を下ろせば、大地の温もりが伝わってくる。そして、青い空を見上げれば、春が待ちきれずに芽吹きはじめる緑を見



早春の里山

つけ、新しい命がいつせいに甦ることを知る。

田んぼでは水が緩み、オタマジヤクシがちよろちよろと泳いでいる。温かい日差しを浴びたあぜ道では黄色いタンポポの花が咲き、風に揺れている。

春だ春だ！と浮かれながら、もう少しと過ぎて来たのだろうか。それでも私は里山歩きが好きなのだ。すべての始まりは、この大地にあるからだ。

陽気のよくなつた今頃の季節、ぜひあなたも里山歩きを楽しんでみては如何ですか。きっと人も自然界の一員であることに気付かされますから…

I・S

カッピースタンプモーダ振る舞い

2月3日、香川諏訪神社境内に於いて恒例となつた節分祭が行われました。当日は風も無く好天に

を戯画化しているように見える。

砂百合子

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

藤村 球子

冬茜三本脚の犬に会ふ
ゆらゆらと水底の鯉三日過ぐ

正月の三日がよく効いていて面白い。何や彼や正月というの

は唯有也無也に過ぎて行くものだが、池の底にいる鯉の姿を描いて、それが正月の人の姿や心

かりん酒をひと口含み詩を吟ず

冬萌やひと雨ほしき日のづく

田辺美津枝

冷たくて春めくものに嬰の鼻

般若心経か観音経か、いづれにし

ても普段の修業のように続かない

と物にならない。去年今年の季語

が効いている。

選者吟

ここまでは一病息災初鏡

選者吟

堂々と影絵の富士や冬夕焼稼ぎ來し家のしきたりなずな粥

介護士の夜勤明けたる二日かな

長島 久江

第一町内会

青山 淳子

義人 三橋勘重郎之墓

金井 忠美様

佐藤 利雄様

相沢 季子様

伊藤 勇様

中村 正之様

第一町内会

小野 信祥様

加藤 直義様

第四町内会

藤村 球子

藤村 球子

後藤 幸香

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に

日常の呟やきそのもの。季語冬

萌がよく生かされている。折角

普通正月と言えば皆生家

に帰つて皆で正月を祝うと言う

のに、何の都合か帰つて来ない

子がいる。その子の為の陰膳。

子を思う親の心。

紅梅の一ひら開く今朝の雨

帰省せぬ子に陰膳の雑煮椀

水仙や戦国武士の庚申塔

書き溜る写経の量や去年今年

普通写経するのにはその佛道の

心の帰依がなければならぬが、

唯お習字の為だけと言う人もいる。

これがまた何と素直な、正に